

邑知地区の「未来予想図」を描いてみよう

社会 第1学年

羽咋市立邑知中学校

1 事例の概要

本校では「知・徳・体」の調和のとれた教育活動の推進と合わせて、平成14年～16年「文部科学省委嘱事業・学力向上フロンティアスクール事業」及び平成17年～19年「文部科学省委嘱事業・学力向上拠点形成事業」の指定研究の取組を通して、特に「確かな学力」の育成と定着に力を注いできた。その中で練り上げられてきた学力向上策が『邑知システム』であり、その支援策として作り上げられたのが『邑知システムを支える環境づくり』である。これらは、「生きる力」を具現化する方法として、学校内だけでなく家庭や地域にも浸透してきており、特に学力の向上（基礎的・基本的な学習内容の定着）において成果を上げている。

8年目の実践となる今年度は平成20年度～21年度「児童生徒の『活用力』向上モデル事業・推進モデル校」の実践の2年目となる。これまでの成果と課題を踏まえながら、『知・徳・体』の更なる調和と、学力面における『基礎・基本』及び『活用力』の定着」に重点を置いた形で『邑知システム』と『邑知システムを支える環境づくり』を実践中である。

社会科としては、活用力を以下のようにとらえている。

- ・身につけた知識を活かし、社会的事象の問題や課題を適切な資料を用いて、多面的・多角的に考察する力
- ・自分の考えを言葉や図・表などを用いて表現する力

以上の概要の趣旨を受け、社会科の「活用力」向上の取組の軸として実践を進めている。

A-1 仮説と実践の概要

A-2 キーワード

A-3 『邑知システム』と『邑知システムを支える環境づくり』

2 実践内容

(1) 単元目標

- ① 身近な地域に対する関心を高め、その観察や調査などに意欲的に取り組み、身近な地域の特色をとらえる。
(①社会的事象への関心・意欲・態度)
- ② 身近な地域の地理的事象から課題を見だし、それを環境条件や人々の営みなどと関連付けて多面的・多角的に追究するとともに、身近な地域の地域的特色をとらえる視点や方法を考察する。
(②社会的な思考・判断)
- ③ 身近な地域に関する観察や調査、地図や統計その他の資料の収集を行い、学習に役立つ情報を適切に選択して活用するとともに、身近な地域の特色を追究し考察した過程や結果をまとめたり、発表したりする。
(③資料活用の技能・表現)
- ④ 身近な地域の地域的特色とそれをとらえる視点や方法などを理解し、それらの知識を身に付ける。
(④社会的事象についての知識・理解)

(2) 指導上の工夫点

社会科では、中教審が示した活動例の中の「情報を分析・評価し論述する」、「互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる」に注目し、これらを年間指導計画の中で活動として具体化していくことを試みた。

本単元においても、新旧の地図を比較し昔の身近な地域を想像する活動や、学習してきたことをもとに身近な地域の課題や将来像について考察する活動などの中で、既習事項を活かし自分の考えをまとめ、文章や図で表すことができるようにさせることで、「活用力」が育まれるように留意した。

B-1 単元計画

B-2 指導法の工夫（題材観・指導観）

B-3 評価計画（評価観）

3 指導の実際

| 学習内容・活動<学習形態> | ・指導上の留意点 |
|--|---|
| <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 邑知地区の「未来予想図」を描いてみよう。 </div> | |
| <ul style="list-style-type: none"> ○ 邑知地区にはどのような課題があるのか考え、発表する。 <グループ・一斉> ○ 邑知地区の将来像について予想や願いを考え、発表する。 <個人・一斉> | <ul style="list-style-type: none"> ・前時の発表会をもとに、邑知地区の「地域の環境条件」、「他地域との結びつき」、「人々の営み」の3つの視点からとらえ、意見をまとめさせる。 ・根拠を明確にしてまとめることを助言する。 ・これまで活用した資料や、調査結果から地域的特色を確認させる。 ・今後、邑知地区がどのように変わっていくのか予想と願いを考えさせ、地域の一員である意識を持たせる。 |

自分たちの身近な地域を、校区である邑知地区と設定した。校舎から見える邑知地区の様子を写生したり、生徒の家の周りの写真から読み取ったりする作業を行い、邑知地区の特色について考えるきっかけとした。地形図の見方を学ぶだけでなく、景観、航空写真、地形図を比較することで、地形図の情報量の多さにも気づくことができた。

調査活動後のまとめる活動では、集めたデータをもとに、グラフや分布図にまとめるなど、生徒たちの様々な工夫が見られた。人口の減少、農業就業者の割合、空き家の分布、特産物の他地域との関わりなど、生徒たちが調査したものをもとに、邑知地区の課題について考えた。そして、それらのことをもとに、将来の邑知地区の姿を予想する活動を行った。

C-1 本時指導案

4 成果と課題

(1) 成果

- ・課題に対して必要な基礎・基本を活用しながら解決に向かう生徒、根拠を示して筋道を立てて自分の考えを述べようとする生徒が多く見られた。
- ・地図を有効に活用したり、データをグラフ化して活用したりする姿が見られた。
- ・自分の解釈を加えて論述したり、意見交換したりする姿が見られた。
- ・身近な地域のマイナス面を知るだけでなく、明るい未来もイメージすることができた。

(2) 課題

- ・基礎・基本の定着のためにも、用語の関連を明らかにさせ、それぞれの用語がまとまりのあるものとして学習できるように取り組ませていく。
- ・考える時間を確保し、意見の交流など他の学習方法も組み合わせ、考える力を高めるための工夫をしていく。